



主な内容

2016年度事業計画	1	第21回ソウル国際図書展	9
事業計画詳細	2	第17回モスクワ国際ノン／フィクションブックフェア	10
2016年度収支予算	4	2016年に開催される主な国際ブックフェア ...	15
第67回フランクフルト・ブックフェア報告	5	本会理事館野 哲氏に出版功労牌授与さる ...	16
研修視察参加にあたって	7	国際ブックフェア参加募集のご案内	16

2016年度事業計画

はじめに

本会では数年来、管理費、事業費における経費節減策を実施すると共に、資金繰りの安定化のため会員の皆さまに会費の一括請求等の特別な計らいのご協力をお願いしてまいりました。会員社の皆さまに心より御礼を申し上げますとともに、新年度も引き続き会員社のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本会はお蔭さまで60年を越える歴史を刻んでおりますが、今後も創立以来の基本理念を尊重しつつ、会員社の皆さまのご理解と国際交流基金を始めとする関係機関・団体等のご協力をいたして日本の出版文化の海外普及に努めたいと存じます。

2016年度事業方針について

内閣府より一般社団法人として、移行認可条件である公益目的支出計画の着実な実施を健全な財政運営とともに求められています。今後も管理部門、事業推進の両面において一層堅実な運営に努めたいと存じます。

第23回東京国際ブックフェアには公益目的支出計画の継続事業として、本会独自のブースをもって参加します。本会のブースでは会員社紹介の企画をさらに強めていきたいと思っております。

外務省、国際交流基金及び本会との協議により発足した「国際ブックフェア参加プロジェクト」は国際交流基金との共催事業として本年で30年目を迎えます。予算状況が厳しくなっておりますが、昨年と同程度の

規模を確保したいと考えております。

将来的な発展が期待される東南アジアの出版市場については国際ブックフェアを含む予備調査を踏まえた上で具体的な企画を実施したいと存じます。

第68回フランクフルト・ブックフェア (FBF)、第22回ソウル国際ブックフェアでは、単独出展社のお世話をしつつ、日本会場を構成し出版文化の交流促進を図る中心的役割を担います。特に昨年会場構成が大きく変更されたFBFでは日本会場の配置問題を中心に主催者との折衝を進めると共に出展に当たっては他団体との連携を一層強化していきたいと存じます。また新年度も出展経費に関する補助金の申請を行い、出展社の経費負担の軽減化を図っていく予定です。海外出版事情視察団の編成としては、10月のFBFを中心にヨーロッパ出版事情視察コース、およびビジネスコースの企画を実施したいと存じます。

広報活動では、年2回の会報の発行とホームページの充実を図っていきたく存じます。『フランクフルト・ブックフェア』(手引き書)は従来、出版事情視察団参加者を中心に配布していましたが、より幅広くFBF参加者に配布いたします。

FBFへの日本の参加のあり方について検討していただく『フランクフルト・ブックフェア世話人会』については、より幅広い出展関係者のご意見を伺う形で一層の情報収集に努め、出展環境の整備、出展社の増加に繋げていきたいと存じます。

1993年より導入していただいている納本制度によって生み出される特別賦課会費は本会の財政上、その役割が誠に大きく、新年度も引き続き多くの会員社のご理解・ご支援をぜひともお願い申し上げます

事業計画詳細

① 国際ブックフェアへの参加事業

1. 出展参加

(1) 第23回東京国際ブックフェア2016

今回は開催時期を9月に移し、『読者のためのブックフェア』を基本コンセプトとし読書推進・読者謝恩の場として開催されます。本会では実行委員会の一員として運営に関わっていますが、一般社団法人認可条件である公益目的支出計画の継続実施事業として独自のブース(10㎡)をもって参加します。前年度の実績を踏まえ、パネル、代表的図書、カタログ等による会員社紹介の企画をさらに進める予定です。

(2) 国際交流基金との共催事業により参加する国際ブックフェア

世界各地の国際ブックフェアで日本ブースは大変な人気を博しており、在外公館、国際交流基金の海外事務所を通してのブックフェア参加申請は例年、多数寄せられます。新年度参加予定の国際ブックフェア一覧は6頁のリストのとおりですが、限られた予算で最大の成果を得られるよう、国際交流基金とも緊密な協議を重ねながら事業を進めていく所存です。

クオリティの高い日本からの出展図書はブックフェア会場で来場者を魅了し、終了後は日本語学科のある大学等、関係機関へ寄贈され、長期にわたって活用されます。中南米や中東地域等、比較的日本の図書になじみのない国々に図書を届けられるこのプロジェクトは非常に有意義と好評を得ています。またブースでの図書販売は現地書店の協力を得てソウル、中東各地で実現していますが、受注販売も含め香港、中米等今後さらに拡大を目指していきたいと考えております。

(3) 第22回ソウル国際ブックフェア2016

今年度も国際交流基金と本会の共催ブースを設けます。好評な期間中の来場者への図書販売については引き続きトーハン、教保文庫の協力をいただき実施の予定です。

国際交流基金と本会の共催ブース以外に、単独出展のお世話も準備したいと存じます。

(4) 第68回フランクフルト・ブックフェア2016 (一部国際交流基金との共催事業)

① 昨年度会場構成の再編に伴い課題を残した日本会場の位置取りについては主催者と折衝を行っています。

② 従来と同様、日本インフォメーション・センター、共同展示場、周囲に単独出展社ブースの配置で日本会場を構成します。

③ 単独出展社ブースはサイズ、位置等、可能なかぎり希望に沿うべくブックフェア事務局と折衝し、出展環境の整備に努めたいと存じます。

④ 共同展示場には、国際交流基金と共同で総合的な「日本インフォメーション・センター」(16㎡)と(一社)自然科学書協会、(一社)大学出版部協会の協力参加による共同展示コーナーを設置する予定です。

⑤ 共同展示コーナーでは、1メートル幅のコーナー展示と商談スペースの提供も行います。

⑥ 図書の展示にあたっては、より有益な書誌情報が提供できるような体制を整えていくこととします。具体的には、日本文学出版交流センター(通称J-Lit)のご協力をいただき、同センターのウェブサイト“Books from Japan”上に出版図書の英文書誌情報を掲載し、世界の出版関係者に事前周知するシステムを実施する予定です。この書誌情報は実際の展示にも有効活用させていただきます。

⑦ 一昨年の東日本大震災関連図書、昨年の俳句関連図書の展示に続き、可能な限り時宜を得たテーマ展示等の企画を試みたいと存じます。

⑧ 日本会場における書籍の展示・紹介にとどまらず、日本の出版文化を幅広く紹介するため、在フランクフルト日本総領事館、ケルン日本文化会館のご協力をいただく予定です。また予算の範囲で生け花を始めとする他の国際文化団体との連携を図ります。

⑨ 昨年に引き続き新年度も、情報を整理の上、単独出展社分を含めたブース借料、ブース設営費、送料の各項目を柱とした出展経費節減に関する補助金の申請を試みたいと思います。

⑩ フランクフルト・ブックフェアへの日本の参加のあり方を諮問いただく「フランクフルト・ブックフェア世話人会」はより幅広い出展関係者のご意見を伺う形で一層の情報収集に努め、ブックフェア事務局との連携を密にし、出展環境の整備、出展社の増加に繋げていきたいと存じます。

2. 国際ブックフェア関連事業

(1) ライプチヒで開催される「世界で最も美しい本コンクール」へ出品

「第50回・造本装幀コンクール」の受賞作品を、(一社)日本書籍出版協会と共同出品いたします。本コンクールには毎年30ヶ国を超える国々から出品され、3月のライプチヒ国際ブックフェア開催時に表彰式が行われ、その年のフランクフルト・ブックフェアで全作品が特別展示されます。

(2) 海外の出版事情視察団の編成

- ①「フランクフルト・ブックフェアとイタリア出版事情視察コース」
- ②「フランクフルト・ブックフェア ビジネスコース」
- ③その他

II 広報活動

1. 会報の発行

一昨年復刊した会報の発行を年2回(原則として7月と翌1月)に定例化させ、ホームページと併せて広く本会の活動をお知らせしていきます。

2. ホームページによる広報

ホームページ上で本会の活動を紹介。会員社を始め、オンライン書店、主要国際ブックフェアホームページへのリンク等の基本情報とともに、主要な国際ブックフェア開催日一覧や派遣専門家の最新報告、さらに海外出版事情視察旅行企画の案内等を行っていく予定です。

3. 『Accessing the Japanese Publishing Industry (略称AJPI)』 英文版・日本出版界の実用ガイド

好評であった従来の『Practical Guide to Publishing in Japan』を受け継ぎ、より汎用性の高い形で昨年度AJPIを作成いたしました。具体的にはA5判変型、本文32頁、翻訳出版権・図書の売り込みや購入の商取引につながる基本情報、翻訳出版助成機関の紹介、主要な出版関連機関、団体の住所等、外国の出版関係者に有用と思われる情報をコンパクトに紹介する内容で、本会のホームページにも同じ内容を掲載しています。

4. 『フランクフルト・ブックフェア』(手引書)

B5判、発行:80部

世界最大のブックフェアを、その歴史から最新の開催状況までコンパクトにまとめる小冊子を作成します。内容を充実させながら活用しやすく簡易製本の形にして希望会員社、視察団参加者に配布します。

III 関連活動

納本制度の継続実施

ご協力いただいていない会員出版社にはご改めてお願いし、既にご協力いただいている会員出版社には更にご上積みのご協力を引き続きお願いする所存です。

IV 2016年度参加予定の「国際ブックフェア」

国際ブックフェア名	会期	備考
1. 第42回ブエノスアイレス国際ブックフェア	4.21 ~ 5.11	
2. 第2回アスンシオン国際ブックフェア	4.22 ~ 5.1	
3. 第29回テヘラン国際ブックフェア	4.29 ~ 5.10	
4. 第26回アブダビ国際ブックフェア	4末 ~ 5初旬	
5. 第22回ソウル国際ブックフェア	6.15 ~ 19	事務局派遣
6. 第27回香港ブックフェア	7.20 ~ 26	
7. 第21回リマ国際ブックフェア(ペルー)	7中 ~ 8初旬	
8. 第12回パナマ国際ブックフェア	8.16 ~ 21	
9. 第24回サンパウロ国際ブックフェア	8.25 ~ 9.4	
10. 第37回マニラ国際ブックフェア	9中旬.	
11. 第23回東京国際ブックフェア	9.23 ~ 25	
12. 第68回フランクフルト・ブックフェア	10.19 ~ 23	事務局派遣
13. 第61回ベオグラード国際ブックフェア	10.23 ~ 30	
14. 第41回クウェート国際ブックフェア	11.18 ~ 28	
15. 第18回モスクワ国際知的図書展 non/fiction	11.30 ~ 12.4	
16. 第27回ドーハ国際ブックフェア(カタール)	12.	
17. 第23回カサブランカ国際ブックフェア	2017.211 ~ 21	
18. 第25回ニューデリー国際ブックフェア	2017.2	
19. 第18回ビリニェス国際ブックフェア	2017.2	

[注]11. 第23回東京国際ブックフェア以外は国際交流基金との共催事業

第57期 2016年度(平成28年度)収支予算

一般社団法人出版文化国際交流会

自:平成28年4月1日 至:平成29年3月31日

(単位:円)

項目	科目	28年度収支予算案	27年度収支予算	増減
前期繰越		33,528,000	19,287,000	14,241,000

1. 事業活動収入

入会金収入		100,000	100,000	0
会費収入	会費収入	14,510,000	15,620,000	-1,110,000
	特別会費収入	450,000	3,000,000	-2,550,000
	特別賦課会費収入	6,839,000	6,933,000	-94,000
事業収入	フランクフルト・ブックフェア参加収入	22,557,000	19,110,000	3,447,000
	ソウル・ブックフェア参加収入	892,000	750,000	142,000
	国際交流基金預託金(立替分)	8,084,000	10,000,000	-1,916,000
補助金等収入	受取利息	5,000	4,000	1,000
	雑収入	31,000	31,000	0
その他	その他収入	300,000	317,000	-17,000
当期収入合計		53,768,000	55,865,000	-2,097,000
前期繰越+当期収入合計		87,296,000	75,152,000	12,144,000

2. 事業活動支出

事業費支出	フランクフルト・ブックフェア参加費	25,031,000	20,300,000	4,731,000
	ソウル・ブックフェア参加費	2,147,000	1,900,000	247,000
	国際ブックフェア参加費	1,063,000	1,000,000	63,000
	国際交流基金預託金(立替分)	5,748,000	10,000,000	-4,252,000
	目録発行費	0	308,000	-308,000
	東京国際ブックフェア参加費	500,000	617,000	-117,000
	調査費	905,000	1,120,000	-215,000
管理費支出	給与手当	10,136,000	10,666,000	-530,000
	福利厚生費	1,440,000	1,500,000	-60,000
	旅費交通費	750,000	1,008,000	-258,000
	通信運搬費	919,000	1,543,000	-624,000
	印刷費	889,000	700,000	189,000
	会報発行費	220,000	206,000	14,000
	会議費	214,000	200,000	14,000
	慶弔費	24,000	32,000	-8,000
	保険料	7,000	7,000	0
	消耗品費	300,000	334,000	-34,000
	雑費	209,000	196,000	13,000
不動産関係	賃借料	1,854,000	1,851,000	3,000
	水道光熱費	200,000	200,000	0
税金関係	租税公課	84,000	75,000	9,000
その他	その他支出	19,000	600,000	-581,000
当期支出合計		52,659,000	54,363,000	-1,704,000
次期繰越額		34,637,000	20,789,000	13,848,000

[注1] 借入金限度額 0円 [注2] 債務負担額 0円

第67回フランクフルト・ブックフェア報告

(一部国際交流基金との共催事業)

名称：67th Frankfurt Book Fair 2015
会期：2015年10月14日(水)～18日(日)
会場：フランクフルト国際見本市会場
主催：ドイツ出版社・書籍販売店協会
参加国数：104カ国(前年101カ国)
出展社数：7,145社(前年7,013社)
ドイツ国内2,428(2,534)
国外4,717(4,569)
展示面積：160,000㎡(192,000㎡)
入場者数：275,791人(このうちトレードビジターは140,474人)
(前年の269,534人に対し2.3%増)
テーマ国：インドネシア

今回は会場全体の再構成が行われました。具体的には8号館の使用を止め、6号館の1階から3階をすべて使用して英米圏の出展社が配され、5号館には欧州諸国、日本を含むアジア諸国は学術・芸術・専門書館の4号館1階に移動しました。ドイツ及び児童書・コミック部門は従来通り3号館を使用しました。結果として中庭のアゴラを挟みコンパクトな構成となり各パビリオンを結ぶアクセスの距離は縮小されましたが、日本会場の位置が悪く、来年に向けて課題を残しました。

上述のとおり、今回は出展者数、入場者数のいずれも対前年比微増となりました。今年度のテーマ国にはインドネシアが取りあげられました。”17,000 Islands Imagination Pavilion”のテーマで、フォーラム館では照明を落とした幻想的な雰囲気の中世界から集められた”Books on Indonesia”の展示、さらに民族舞踊も披露しました。また4号館の同国ブースでの作家対談、朗読会等、同国を紹介する多彩なイベントが催され多くの来場者で賑わいました。

来年の第68回フランクフルト・ブックフェアの会期は2016年10月19日(水)～23日(日)と発表されていますが、オランダ/フランダースがテーマ国として取りあげられます。

日本の出展状況

日本からは31社4団体が出展しましたが、出展会場は児童書・コミックの3号館、学術・専門書・芸術書の4号館、英米語圏出展社・エージェントコーナーの6号館と多岐にわたりました。本会では4号館1階(Hall 4.0)に共同展示場と単独出展社ブースによる日本会場(展示面積136㎡)を構成しましたが、広大な中国会場の奥に位置し、しかも共同展示場の対面が壁ということもあり、出展社間でも不評で、いわゆる飛び込みの出展者が訪れるには難しい環境でした。したがって見本市の醍醐味の一つであるアポイント無しの新たな出会いの機会が減ってしまったとは多くの日本の出展者のかたるところで、次回に向けて課題を残しました。

なお、本会では今年度もFBF参加事業について、「地域経済活性化に資する放送コンテンツ等海外展開支援事業費(略称J-LOP+)補助金」を申請し、受理されています。以下、出展状況の概要報告です。



日本インフォメーション・センター

①日本共同展示場(40㎡)

「日本インフォメーション・センター(16㎡)」と「共同展示コーナー(計24㎡)」で構成。

日本インフォメーション・センターは国際交流基金と本会の共同で運営し、来場者からの様々な要請、問合せに応接しました。展示コーナーでは、出版2団体である(一社)自然科学書協会、(一社)大学出版部協会の各展示コーナー、壁面1m幅を基本とした出展社のコーナー展示、国際交流基金予算による購入図書展示コーナー、更に地方創生のテーマの下「俳句関連の図書」の展示を行いました。

日本インフォメーション・センターで実施した来場者へのアンケートでは22ヶ国99名の回答をいただ

いたが、当然のことながら地元ドイツの人が半数強を占めています。日本会場への訪問目的はビジネスと日本文化への関心がほぼ半数となり、特に関心を寄せる分野は日本の文芸、芸術、文化から歴史、日本語、マンガ、教育、技術等、多岐にわたっています。共同展示場における装飾、展示図書、パフォーマンスについては概ね好意的な感想が寄せられています。

② 単独ブース出展

下記5社が共同展示場の周囲に単独ブースを構えました。

学研マーケティング、講談社、小学館、日本著作権輸出センター、ディスカヴァー・トウェンティワン

出展各社では英文サマリーは元より様々な準備、工夫を凝らして商談に臨んでいます。終了後のアンケートによりますと、各社のビジネス成果は「やや良い」と「やや悪い」という回答が相半ばという結果でした。期間中60件の商談をこなした社もあれば、新しい作品の成約見込みについて70%という回答を寄せた社もあります。アンケートに回答いただいた単独・共同出展社(社)の商談総数は30ヶ国・地域、計234件となります。このうち西欧諸国が9ヶ国145件、アジア12ヶ国37件等となっています。ジャンルとしてはやはりコミック、絵本が多く、次いで実用書、文芸書となっています。

③ 出版2団体による出展

各団体からの出展数は以下の通りです。

自然科学書協会：17社44点

大学出版部協会：15部25点

合計：32社(部)69点

④ 書誌情報の事前発信

今回もJ-Lit(日本文学出版交流センター)のご協力をいただき、出展図書の書誌情報を事前に発信する体制を敷きました。具体的には、J-Litのウェブサイト”Books from Japan”上に出版2団体のすべての出展図書を含む117点について英文書誌情報を掲載し、世界の出版関係者に事前周知するシステムを実施しました。さらにそのカラープリント版を図書ごとにA4判で用意し各展示図書とともに来場者に紹介しました。

⑤ コーナー出展

1m幅のコーナー展示には下記6社が申込み、各担当者が積極的に商談を進めていました。オーム社、鹿嶋国際著作権事務所、三修社、トーハン、ポプラ社、

東京国際ブックフェア

⑥ 俳句関連図書の展示

今回は地方創生を掲げたJ-LOP+申請のなかでうたった『俳句関連』の図書20点を展示しました。今や俳句は我々日本人の予想を超えて世界に広まっていますが、JAL財団や愛媛県松山市の協力をいただき、俳句コンテストの紹介や浴衣の着付けパフォーマンスも合わせて実施しました。

⑦ 国際交流基金予算による購入図書の展示

英文版の「Books on Japan」関連の図書を中心に、文学書、伝統文化、日本語学習教材から和食、コミック、Pop Cultureまで多岐の分野にわたる215点余を展示・紹介しました。今回も会期中最も多くの来場者が訪れた展示コーナーとなりました。

⑧ 在フランクフルト日本国総領事館とケルン日本文化会館の協力

日本インフォメーション・センターに隣接の日本総領事館ブースでは広報文化担当のマッテラ・イザベル氏、岩佐るみ氏らを中心に、折り紙、書道等の実演会が開かれ、来場者の人気を博しました。ケルン日本文化会館からは立川雅和館長、高羽洋充副館長及び金子美環事務局長が共同展示コーナーにて応接にあたりました。

⑨ 菅直人元内閣総理大臣の来訪

開会3日目の10月16日(金)午後、菅直人元内閣総理大臣が来訪されました。菅元総理は会場内の公開テレビスタジオでインタビュー番組に出演、原発への意識の高いドイツ人来場者を中心に100名ほどが視聴、その後のサイン会でも大変盛況でした。日本会場では著書を含めた展示状況を視察、本会の竹内会長とも面談されました。

⑩ いけばなの装飾

今回も(一社)いけばなインターナショナルの全面的なご協力をいただき、日本会場の各ブースに生け花作品が飾られ、日本文化の彩りを添えました。特に日本インフォメーション・センターに置かれた作品には『PACE』の文字が入られ、多くの来場者に好評でした。

所感

今回は近郊で降雪が伝えられるほど気温が下がり、雨模様の天候が続くなかでの開催でした。今回も出展参加にあたって実にさまざまな方々のご協力をいただ

きました、ご関係の皆さまに改めて感謝申し上げます。前述しましたとおり、なんといいまして今回は数年振りに実施された会場全体の再構成が大きなトピックとして挙げられます。中庭のアゴラを中心としてコンパクトになりそれぞれのパビリオンを結ぶアクセスは短縮されましたが、日本会場を含むアジアの出展社が移動した4号館1階は残念ながら主要取引先である欧米出展社の会場と隔離され、見本市の醍醐味である新規取引先と巡り会う機会が大幅に減少してしまいました。申すまでもなくフランクフルト・ブックフェアは版權商取引を中心としたB to Bの場であり、日本会場の配置改善が次回に向けて事務局へ要求する最大の焦点になりました。粘り強く交渉していきたいと存じます。

インターネットの普及により外国の出版情報を容易に取得できる環境が整い、国際ブックフェアの意味合いがかなり変化してきていることは紛れもない事実だと思います。一方において、日本文化の様々な分野で世界に紹介するにふさわしいものは数多くあると言われています。だからこそ出版の世界においてもインバウンドな情報取得だけではなくアウトバウンドな情報発信を続けることが大切ではないかと改めて思います。その意味でこのフランクフルト・ブックフェアの意義性はなお十分にあるのではと思います。次回の出展に向けては、他団体との連携をさらに強め、より幅広く呼びかけていきたいと思っています。政府機関の補助金にしましても出展社の経費節減を目指し、次回も申請していきたいと考えております。

第67回 フランクフルト・ブックフェア研修視察参加にあたって

昭和図書(株) 坂本美香・竹内映子

2015年10月16日、私たち一行8名は昼、成田を出発し同日夕方フランクフルトに到着。そのまま宿泊先のホテルがあるマインツの町までバスで移動。車窓からは見渡す限りの広大な平野を臨むことができた。到着したホテルはライン川のほとりに建ついかにもヨーロッパらしい瀟洒な感じであった。到着が夜となったせいもあり、夕食を早々と済ませベッドに入るが時差のせい、寒さのせい、あまり寝つけないまま朝を迎えた。

今朝はいよいよブックフェア。今にも雨が降りだしそうなどんよとした天候。フランクフルトのメッセ会場には、土曜日のせいか渋滞もなくホテルから30分程度で到着した。まず、全員で日本のブースが集まっている4号館に向い、出版文化国際交流会の横手専務理事にご挨拶をし、会場の大まかな説明を受けた後自由視察となった。世界最大の書籍の見本市というだけあって、世界中の出版社が一同に集い版權等の売買を行うというのだから、とにかく広い。今年より規模を縮小した旨の説明も受けたが、では昨年まではどれだけのスペースだったのかと想像を絶する。帰りの際の集合場所を決められたが、ここに果たして無事戻って来ることができるのか不安に思うほどだった。

あまり一気に遠くの建物へ移動するのは迷子になりそうで勇気が必要だったので、近くの日本の出版社のブースより見学。同じフロアにはアジアの出版社が軒を並べるが、他の国と比較するといずれの日本の出版社のブースも寂しい。ブースの面積も出展書籍も少ない。アジアをリードしてきた日本なのだから、なぜもっと文化面で積極的に外交をしようと思わないのか不思議だった。そんな中で中国系出版社のブースの規模が大きく存在感を示していた。国を挙げて乗り込んできているようにさえ思えた。日本のブースの存在感の薄さは好対照であった。



フランクフルト・ブックフェア視察団

そして今年のテーマ国である『インドネシア』。おそらく自国の出版市場規模は小さいであろうが、世界を相手に版權等の取引をしようという意気込みが感じられる。セミナーを開催し自国のアピールをしていた様子が印象的であった。

また、ブックフェアは別の側面を持っているように感じたのがコミックのブース。コスプレをした人たちが溢れており、これだけを見ると書籍の見本市という

よりさながら世界の巨大文化祭のようでもある。マンガに疎い私たちは何のコスプレだかは全くわからなかったが、ただのマネではなく、コスプレの中にも自分たちの個性を出しているように見え、一種のアートの世界になっているのだと理解した。

とても全てを回り切ることが到底できなかったが、どこの国のブースを歩いていても感じたのは、ここにあるたくさんの素晴らしい絵本や書籍が1冊でも多く世界の子もたちに届けられればよいということであった。

夕方メッセ会場を後にし、文豪ゲーテの生家を訪ねる。現地アシスタントガイドの矢野さんの舞台女優さんながら、情熱のこもった説明を受ける。多感な少年時代を過ごした家であり、当時、フランクフルト屈指の名家だったためとても立派な家である。調度品は第二次世界大戦中、疎開していたためそのままが残されているという。いずれも素晴らしいものだった。

翌日は活版印刷の発明をしたグーテンブルグの博物館を見学。私たちが宿泊した町マインツの出身であり、ホテルから徒歩で行くことができた。その途中マインツの市街も見学したが、当日は日曜日ということでお店は全てお休み。礼拝の日ということらしい。ドイツ人の休み方の徹底ぶりを垣間見た気がした。日本人には絶対に真似できないだろう。市街を歩いていると日曜のせいの人通りも少なく、足許は石畳でどこからともなく教会の鐘の音が響いてきて、ヨーロッパの風を少しだけ感じることができた。

ドイツに来て初めて顔を出した沈みかけの太陽に見送られながら、夕方空路イタリアローマに向かう。ローマの街並みは古く、いたる所が世界遺産のためなのか近代的なイメージはない。そもそもイタリアの訪れたいずれの街も、古き良きものを守ろうとした結果ではなく、たまたま古くなったけどなんか雰囲気いいからこのままにしておこうという感があった。

翌日はバチカン市国、ローマ市内を見学。バチカン市国、これはもう本物を見た者だけがそのすごさを体で感じるもので言葉にできるものではない。終始圧倒されっぱなしであった。午後は市内の名だたる名所を見学して回ったが、どこも修復工事中のところばかりで今ひとつ感動に足りなかった。その後、市内の書店視察では、店の採光の取り方がイタリアらしく明るく、その上カラフルでクリエイティブな色使いの書籍や絵本を数多く見かけ、さすがイタリア!と思った。ドイ

ツ滞在中、フランクフルトの書店も1軒覗いてみたが、金融経済の中心地の書店ということもあってか派手な装飾や色使いはなく、イタリアとはかなり感じが違っていた。ただどちらも、店頭でディスカウントされた書籍が堂々と並んでいる姿が見受けられ日本との文化の違いに少々驚いた。

ローマを後にし、ナポリ郊外のポンペイ遺跡を訪ねる。古代ローマの都市と人々の生活ぶりをほぼ完全な姿で今に伝える貴重な遺跡。発掘されたポンペイの街は整然と区画され、住民たちはもちろん、劇場、公衆浴場、下水道まで完備され、人口1万人以上と推測される町には壁画、モザイク画、市民が記した落書き等が当時のまま残され、古代ローマの市民たちの贅沢で享樂的な暮らしぶりを鮮明に物語っているように感じた。

ナポリからフィレンツェへ、今回初の列車移動。『世界の車窓から』的な気分を少し味わえ、にわかヨーロッパ人になったかの気分。でも、外国の方たちはトレーにサンドイッチを乗せおしゃべりに食べていたが、私たち一行はビールにピーナッツといったように純日本人?を貫いた。

フィレンツェ到着後、ピサの斜塔を見学。斜塔内にはカメラ等以外の持込は不可のため貴重品は全てポケットに入れた。しかし斜塔に入るときにそれは厳しいセキュリティーチェックがあり、ポケットの中身も全部出させられた。やっと入口にたどりつくとも入口もびっくりするほど斜めになっている。嫌な予感を感じながら入ると、既に体が斜めに傾いている。階段は予想以上の狭さで螺旋状になっており、全ての階段297段を上り切ったときにはもうへろへろ。船酔い状態となっていたため、素晴らしい上からの景観を眺める余裕もなく地上へ降りることとなった。ピサの斜塔といえはお決まりのポーズ、斜塔を倒したり、支えたりするポーズで撮影しているが、これがなかなかうまく撮れない。みんなけっこう悪戦苦闘していた。

翌日はウフィッツィ美術館を見学。ルネッサンスを代表する画家ボッティチェリの作品を数多く所蔵する美術館だが、とにかくすごい!の一言。日本でも昨年ウフィッツィ美術館展が開かれていたが大混雑していた。バチカン美術館といいウフィッツィ美術館といい、この本物をいつでも見るのできるイタリア人はなんて幸せなのか。凡人の私たちがこれらの美術館を語るなどということがいかにおこがましいことかと思う。

そんなウフィッツィ美術館を名残惜しみながらヴェ

ネツィアに向かう。ところが出発し数十分というところで事故渋滞。1時間位であったろうか全く動かず…。夕方の書店視察に間に合わない可能性が出てきたため、明日の自由視察の時間に振替えようかと添乗員の山崎さんがどこかへ連絡している声が聞こえてきた。明日の自由視察の時間は晴れて自由の身になれると色々計画を立てていた私たちは目を見合わせ、早く動いてくれ！と祈る気持ちでいた。その気持ちが通じたのか、急に渋滞が解消し、書店視察も何とか間に合うだろうということになりちょっとホッとした。そしてヴェネツィアにやっと到着。

私たちの宿泊するホテルは本島にあり、船で渡ること。船に弱い私たちはまたもここで嫌な予感の中。バスから降りると棧橋に浮かんでいるのはモーターボートに屋根をつけただけの船。早くも私たちのスーツケースが積み込まれている。「まさかあのモーターボートみたいな奴？」「あれは荷物だけじゃない？」「私たちが乗るのはもっと大きい船…」と数人で話をしているうちに先に棧橋に到着していた男性陣がその船に乗り、私たちを手招きしている。「うそ…」「ムリ…」あんな小さい船で30分も… 昨日ピサで味わったよりもっと強烈な船酔いとなるのは目に見えている。でも仕方ない… 覚悟を決めて乗り込んだがやはり揺れる。長い、長い30分であった。しかし男性陣の子どもに返ったかのようなはしゃぎぶりに少し気が紛れた。ありがとう…

船酔いでへろへろなままホテルにチェックイン後、時間が押していたため休む間もなく書店視察へ向かった。3軒視察の予定だったが、やはり時間が遅く1軒は閉まっていたため2軒のみの視察となった。1軒目の書店は本当に小さく置いてある点数もわずかであったが整然と並べられ、とてもお堅い書店の雰囲気でした。日本でいえば専門書ばかりを扱っている書店のようであり、店主の方もイタリア人の陽気さを持ち合わせていたが、とても本に対して真摯に向き合っている姿が感じ取れ、日本人に近い感覚がした。2軒目の書店…ここはもう1軒目とは好対照。もう驚きの一言。本を扱う商売なのに、愛着とかそんなものは感じられない。商品である本が乱雑に置かれ、その上にネコは乗るわ、ネコの餌も置いてあるわで… ってことはまさかネコのトイレも本の上??と私たちは疑ってしまった。店の裏は運河が流れており、本が浸水しかかっているようにも見えた。これはイタリア人のおおらか

さではなく、店主の方針?というよりこれを名物に集客を図っているとしか思えない。1軒目の真面目な書店よりも売場面積も広く、けっこう遅い時間に訪ねたにも係わらず、お客さんの入りも悪くなかった。日本もそうだが、書店といってもただ品揃えがよいだけでは集客できない時代となってしまったのだろうか。本に携わる仕事をしている私たちとしてはちょっと寂しい気がした。

こうして私たち一行は翌日の自由視察をそれぞれに終え、また帰りの船で当然のごとく四苦八苦しながらもヴェネツィアを後にし、パリ経由で羽田に到着した。

10日間という長丁場での出発前は不安もあったが、よき仲間とめぐり逢え、また行く先々でついでに現地のアシスタントガイドの方々、そして日本から一緒に添乗して下さった山崎さんの行き届いたご配慮があったからこそ、あっという間の10日間の視察を無事終えることができたと思う。この場をお借りしてお礼を申し上げます。皆さん本当にありがとうございました。この貴重な体験は私たちの一生の宝となるでしょう。

第21回ソウル国際図書展

名称：Seoul International Book Fair
会期：2015年10月7日(水)～11日(日)
入場時間：10月7-9日(水～金)10:00-19:00
10日(土)10:00-20:00
11日(日)10:00-17:00
会場：COEX(韓国総合展示場) Hall D
主催：大韓出版文化協会
出展社数：国内197社(昨年231社)
海外106社(昨年138社)
参加国：15カ国(昨年22カ国)
イタリア、サウジアラビア、台湾、日本、
中国、アメリカ、アゼルバイジャン等
入場者：101,354人(昨年130,957人)
テーマ国：イタリア

韓国国内でのMERS流行のため、今年のソウル図書展は会期が6月から10月へと延期された。そのため従来の半分ほどの大きさの会場しか確保できず、セミナー・講演会場やライツセンターも遠く離れた不

便なロケーションとなった。

出展や来訪取りやめも多く、特にテーマ国のイタリアが本の展示のみで、セミナーでのスピーカーを除いてスタッフが来ておらず、ブースに本だけが並んでいる寂しい様子だった。

終了後、来場者数が昨年より25%弱マイナスだったと発表されたが、変更の広報不足か、あるいはちょうど同時期にパジュで開催される本のお祭りとなっていたためか、業界関係者にとってはフランクフルトブックフェアの直前となってしまったからなのか。翌日からは徐々に増えたものの、特に初日水曜の来場者が例年より圧倒的に少なく、今回の図書展は大丈夫かと皆心配したほどだ。またこの開催時期変更に加えて来場者の出足に大きな影響を与えたと思われるのが、図書展での販売割引率の変更だ。

新刊発行後18ヶ月未満の図書の割引は定価の10%まで(送料負担などのサービスも合わせると実質的には19%まで)、それ以降の図書は割引規制なし、という従来の販売に関する法律が、新刊は実質も15%まで、旧刊も基本は定価制にと2014年11月に改正された。今回がその改正後初めての図書展となったわけだが、新法律は図書展会場でも適用外とされなかったらしく、どのブースでも国内書は定価販売か、わずかに10%引きをしているところがあるくらいで、これまで30~70%引きを目標に大勢の人が押しかけていた光景は過去のものとなった。これも今回大手出版社の出展が少ない理由ではないかとのことだ。

ただし輸入書は法改正とは関係がないため、輸入書大幅値引きをしているブースは例年どおりたくさんの方が詰めかけていた。

今回のこの状況を受けて、来年は図書展会場は法律の適用外とし、再び割引販売をして活気溢れる空間に戻すのか、あるいは値引き販売に頼らず本をじっくり楽しんでもらう場としていくのか、東京ブックフェアの今後を考えていく上でもよい参考となりそうなので、次回に注目したい。



会場入口

別会場でアート見本市がちょうど開催中されるからなのか、今年の図書展テーマは「Book Meets Art」で、イタリアの画家 Fabian Negrin の作品特別展示、ストリートパフォーマンス、ハンゲルのカリグラフィーと音楽のコラボ、コーラス、会場外では生け花・盆栽の展示など、図書の他に様々な分野のものを目にした。他国ブースの多くが観光や児童書など特定分野を紹介している中、日本ブースは今回も様々なジャンルの本を展示し、外国ブースの中では一番の品ぞろえで人気を誇った。両国関係がぎくしゃくとしていた中での開催だったが、例年どおり日本からの本を皆楽しんでくれていたようだ。大手書店の教保文庫が売れ筋の図書を用意して(日本からの輸入書なので)20%引きで販売、特に休日は大勢の人が群がっていたが、来場者数を反映して売上高は昨年より減少とのことだ。

またトーハン、ポプラ社が単独ブース出展をし、ミーティングに忙しくされていた。化学同人社とオーム社からは今年もまた図書をお預かりしミニブース展示をした。

本会理事の館野哲さんが、これまでの長年に渡る韓日出版交流でのご尽力を評価され、韓国文学翻訳院から功労賞を授与された。図書展会場ではそれに合わせ、これまでのご著書・翻訳書紹介など功績をふり返る講演会が行われた。

第17回モスクワ国際ノン／フィクションブックフェア

報告：上村和馬(慶應義塾大学出版会編集部)

名称：17th International Book Fair for High-Quality Fiction and Non-Fiction

会期：2015年11月25日(水)~29日(日)

入場時間：11時~19時

会場：Central House of Artists(中央芸術家会館)

展示面積：5,792 m²

主催：EXPO-PARK Exhibition Projects Ltd.

テーマ言語：スペイン語

出展社：274社

参加国：25ヶ国

ブルガリア、ベネズエラ、グアテマラ、ドイツ、イスラエル、スペイン、イタリア、コロンビア、ラトヴィア、マケドニア、メキシコ、ニカラグア、ノルウェー、ポー

ランド、ポルトガル、ロシア、セルビア、スロヴェニア、ウクライナ、フィンランド、フランス、チリ、スイス、エストニア、日本
入場者数：34,000名

はじめに

2015年11月13日、パリで同時多発テロが起きた。4日後の17日には、エジプト東部シナイ半島で起きたロシア機の墜落について、ロシア政府が「IS（イスラム国）によるテロ」と断定し、シリア領内のISの軍事拠点への空爆を強化した。

第17回モスクワ国際ノン／フィクションブックフェアはそのような時期に開催された。

外国人は常時パスポート携帯を義務づけられ、滞在先ホテルやショッピングセンターには警備員や警官が立ち、入念なチェックが行われた。フェア会場出入口にはセキュリティセンサーが設けられ、ボディチェックやかばんの開封も求められた。会場内では時折シベリアン・ハスキーを連れた警官が巡回した。

とはいえ、モスクワ市民はいたって冷静だった。テロを恐れるメンタリティなど微塵も感じさせなかった。テロに対する不安はないのか、何人かに訊いたが、全員が不安はない、テロは起こらないとの返答だった。日本ブースのスタッフの一人、アンナさんに同様の質問をすると、「テロリストに正義はない。彼らはいずれ滅びる運命です」とにこやかに言うので、途端に緊張がほぐれて、それ以来、テロへの不安は消えた。

1. フェア会場、中央芸術家会館

滞在先のホテル、プレジデントの部屋の真正面には、高さ165mのピョートル大帝記念碑があり、その下をモスクワ川が流れ、右手には救世主キリスト聖堂が、左手にはフェア会場、中央芸術家会館（トレチャコフ美術館新館）のあるムゼオン（彫刻）公園が位置している。フェアの会期中、あちこちにあるレーニン像に挨拶し、川べりの絵画を眺め、画材店を眺め、カフェでお茶をし、移動図書館の本を眺め、バレエのシルエットに出会った。フェア会場、中央芸術家会館にはもちろん無数の本が溢れており、音楽が聴こえ、あちこちでなされる朗読に耳を傾けた。文字どおり、ロシアのあらゆる芸術が一同に会するような場である。

例年はフェアのテーマ国が設定されるが、2015年はテーマ言語としてスペイン語が選ばれ、スペインの

ほか、ベネズエラ、グアテマラ、コロンビア、メキシコ、ニカラグア、チリなどの中南米諸国が2階本会場入口に設けられた特設スペースで自国の文学作品などを紹介していた。

2階中央のイベントスペースでは、リュドミラ・ウリツカヤなど現代ロシアを代表する作家のトークイベントが連日開催され、その都度、超満員となった。『霧につつまれたハリネズミ』などのアニメーションで日本でもよく知られるユーリ・ノルシュテインも来場していたため、思わずサインをもらってしまった。来場者の多くが本の購入を目的としているため、購入した本を両手いっぱい抱えたり、キャリーケースに詰め込んで真剣に品定めをする愛書家の姿が多数見られた。

2階は上述のイベントスペースやスペイン語特設ブースのほか、参加各国のブース、ロシアの版元のブースが所狭しと配置され、大人たちで賑わったが、3階はフロアのほとんどが絵本の版元で構成され、イベントスペースでは、絵本づくり教室など、子どもたちが本に触れあうためのイベントが連日開催されて、嬉々として絵本を手取る子どもや親御さんで溢れかえっていた。

2. 日本ブース（国際交流基金とPACEの共同ブース）

独立行政法人国際交流基金と一般社団法人出版文化国際交流会（PACE）の共同ブースは、会場2階の中央イベントスペースに隣接したため、多くの来訪者を望むことができる好立地だった。展示書目は、文芸（小野正嗣氏全作品、『火花』『さようなら、オレンジ』『冥土めぐり』『サラバ！』等）や、漫画・アニメ（『ちはやふる』『ワンピース』『パラダイス キス』『借りぐらしのアリエッティ』『火垂るの墓』等）、絵本（『りんごかもしれない』『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』『そらいろのたね』『しろくまのパンツ』等）、日本文化（武士道、大相撲、歌舞伎、文楽、浮世絵、盆栽、庭園美術、京都、富士山などの関連書籍）、趣味（料理、弁当、刺繍、編み物、折り紙などの関連書籍）、雑誌（『Pen』『Very』『Voce』『一個人』等）、日本語学習帳（初級から中級）を中心に全257タイトルが用意され、その他、来訪者への配布用として、Japan Book Newsなどの英文カタログや外務省が海外向けに発行する写真誌『にぼにか』、リーフレット、折り紙が用意された。



フェア初日、準備の整った日本ブース

会期中、日本ブースは、老若男女を問わず幅広い世代の来訪者で活況を呈した。

全 257 タイトルのなかで、若者には、奈良美智の自選作品集、スタジオジブリの『借りぐらしのアリエッティ』や絵本などビジュアルの美しい本、『ワンピース』『パラダイス キス』などの漫画の人气が高く、中高年層には、日本文化、特にロシア語の『П PE Д СМЕРТНЬЕ СТ И Х И САМ У РАЕВ』（「侍辞世の句」の意）が人気を集めた。また、上述の写真誌『にぽにか』は日本文化や風景の美しい写真が満載であったため、相当な数が用意されていたが最終日まですべて配布された。また折り紙は子どもや高齢者の方に人気で、複数の「折り紙マスター」が蟹やアヒルや薔薇などの複雑な折り紙をつくって飾ってくれた。

展示書目には、ロシアでも人気のある村上春樹の『職業としての小説家』も含まれていたため、目立つように配置したが、手に取る人は皆無だった（表紙には村上春樹のドヤ顔写真が使われているにもかかわらず！）。また、来訪者の質問の多くが書籍の内容に関するものであったことから（「この本は何について書かれているのか？」という基本的な質問）、今後の課題として、文藝作品などのテキストのみの展示書目については、現地語でちょっとした解説文を付すなどの対策が必要であるように思った。

また著作権交渉については、ロシアの版元よりも、フェアに参加している他国（スイスやドイツ、イタリア等）から、当該版元の自信作の売り込みが多く、また宮崎駿氏の著作の著作権状況についての問い合わせが複数あったため、日本側エージェントを紹介した。

3. 小野正嗣さん講演会

小野正嗣さんの講演会は、「地方を描く文学」をテー

マに、フェア初日の 17 時より、2 階文学カフェで開催された。お話しはまず、小野さんの出身地、大分県蒲江町での幼少年期の本との出会い、言葉との豊かな関係の結び方から、やがて本を読むことの意味に話が進んだ。

漁師町の蒲江では、本の文化こそなかったが、その土地に根差した独自の習慣やローカルな知識があり、そこに生きる人びとが世代から世代へと受け継いでいく、方言、言葉の抑揚や沈黙といった、豊かな話し言葉の文化が息づいていた。その意味では人間が書物の役割を果たしている、蒲江はそのような場所だとのことだった。

また内田樹さんの教養の定義に触れながら、本を読むことで得られる教養とは、人智の及ばない世界が存在することをわきまえることであり、それを身に付けるためには、時代や場所、歴史的・文化的なコンテキストが決定的に異なる、できるだけ遠い国の、できるかぎり遠い過去の書き手のテキストに触れる、そこにリーダブルな部分があるのであれば、それが真の教養だと思う、というお話もあった。そのような意味での本は、他者への共感を可能とする窓であり、普遍的な人間の感情を知ることで、自分をよりよく知ることのできる装置のようなものである、とのことだった。

また、そのような教養をもつ人を小野さんは「しぇんしぇ」（蒲江の方言で「先生」の意）と呼ぶが、小野さんにとっての「しぇんしぇ」は、くりかえし読む大好きな本に似ている。「しぇんしぇ」も本も一方的に与えるもの、苦しいときに支えてくれるもの、「しぇんしぇ」は生徒に「生きる歓び」を与えてくれるものである。したがって、その意味での本は、たとえ死を主題としていても、必ず生の側にある。とはいえ、人生に大きな影響を与えてくれる「しぇんしぇ」に出会うことが難しいように、そのような本に出会うこともまた難しい。だからこそ、本を読み続けなければならない。そうすればやがて「しぇんしぇ」のような本にめぐりあうことができる、というお話だった。

講演終了後、ロシア人の熱心なファンとの活発な質疑応答がなされたが、小野さんの小説のモチーフには、浦島太郎の御伽話が影響しているのか、といったユニークな質問もあった。

また、質疑応答のあと、芥川賞を受賞された『九年前の祈り』から方言の響きが特徴的な一節を小野さんが朗読し、拍手喝采のうちに会は終わった。

講演前には、ラジオ・スプートニクのアンナ・オロヴァ記者による、小野さんへのインタビューも行われ、後日、放送された¹。

4. ロシアの出版状況

2011年から2014年にかけてロシアで刊行された書籍のタイトル数と発行部数の累計は下記のとおりであり、いずれも減少傾向にある²。

年	タイトル	数発行部数
2011年	122,915点	612,500,000部
2012年	116,888点	540,500,000部
2013年	120,512点	541,700,000部
2014年	112,126点	485,500,000部

ロシアでは2000年代に入り、インターネット環境が急速に整備され、公共料金も安価なため、普及率が高い。インターネット利用者数は、2013年12月末時点で約8,750万人、ドイツ(約6,980万人)やフランス(約5,220万人)を上回り、ヨーロッパで最もインターネット利用者数が多くなっている³。また、Googleが発表したスマートフォン関連調査によると、ロシアにおける2013年のスマートフォン普及率は前年比17ポイント増の36%に急拡大した⁴。またここ5年でタブレット端末も急速に普及し、モスクワ市内ではWi-Fiが無料で接続可能であるため、映画や音楽に限らず、書籍についても、インターネット上に海賊版が大量に流通しており、紙の本の売上は年々減少している⁵。

また、電子書籍は、2012年には800万ドルの売上を記録し、2011年の410万ドルから劇的な成長を見せているが、それでもロシアの書籍市場の1%ほどの売上しかない⁶。ロシアには、Amazonに類するOZONなどのe-コマースサイトやLitRes, iMobilcoなどの電子書店が存在するが、個人のクレジットカード所有があまり進んでおらず、流通インフラも未整備であるため、発展段階にある⁷。また電子書籍は紙の本に比べて高い価格設定がなされており、さらに、flibustaのようなインディペンデント・ライブラリが多数存在し、新刊であっても海賊版が流通してしまうため、電子書籍市場の拡大を阻害しているとのことである⁸。

5. 出版関係者への取材

■ EKSMO

EKSMOは、ASTと双璧を為すロシア最大手の総

合出版社である。村上春樹の全作品を刊行していることでも知られている。2014年の発行タイトル数は7,047点、発行部数累計は41,560,000部であり、発行タイトル数だけで言えばロシアの全出版社中1位である⁹。ただし、2012年の発行タイトル数は8,423点、発行部数累計は56,616,000部であるから、この2年間でタイトル数、部数ともに激減している¹⁰。ミステリー部門責任者のエフゲニー・ソロヴィヨフ氏に話を聞いたが、2015年は日本でも翻訳が刊行されているE・L・ジェームズの『フィフティ・シェイズ・オブ・グレイ』のロシア語版が100万部以上のベストセラーとなり、電子書籍にも積極的に取り組んでいるが、それでもやはり書籍の売上は年々減少しており、特にここ5年の落ち込みがひどい。その最大の原因はやはりインターネット上での海賊版の横行に因るが、特にスマホの普及と軌を一にして、急速に落ち込んでいるとのことだった。政府に働きかけて、海賊版の取り締まりは強化されているはずだが、その効果は表れていないと嘆いていた。



ロシア最大手の総合出版社EKSMOのブース

■ サンクトペテルブルク大学出版局

今回のフェアには、サンクトペテルブルク大学をはじめ、サンクトペテルブルク・ヨーロッパ大学、国立高等経済学院、演劇大学の4つの大学出版部が出席していた。このうち、サンクトペテルブルク大学出版局のアレクサンドル・ヤロフェエフ氏に話を聞いたが、その位置づけはUniversity Pressというよりは、印刷局に近く、各大学各組織別にそうした印刷局が複数存在する大学もあり、ほとんどの場合、横の連携がないため、他の大学出版局がどのような実態なのかかわからないとのことだった。サンクトペテルブルク大学については、ほぼ大学からの資金援助で運営しており、国などから助成金を得て出版している書籍はごく一部

で、しかも助成額は年々減少している。ただし、他国書籍の翻訳プロジェクトなどには助成が付くことが多いとのことだった。やはり書籍の売上は年々減少しており、原因として、海賊版の流通とロシアの景気悪化を挙げた。対応としては、製作コストの抑制と適切な価格設定（価格帯を引き上げる）を挙げた。ただし価格帯を引き上げたことで、客離れが加速している面もあるので、ハンドリングが難しいとのことだった。また、電子化については、現時点では学術の信頼性を担保できないため、進んでいないとのことだった。

■モスクワ日本文化センター図書館

国際交流基金の坂上さん、畠山さんのご厚意により、モスクワ日本文化センター（外国文献図書館「国際交流基金」文化事業部）図書館を見学させていただいた。選書担当の畠山さんにお話を伺ったが、限られた予算のなかで、NDCに沿ってバランスよく選書することを心掛けているが、最新の日本の状況を紹介するため、特に雑誌の配架に力を入れているとのこと、確かに雑誌の品揃いは充実していた。蔵書数は決して多くはないが、各ジャンルとも硬軟織り交ぜてバランスよく配架されており、漫画や映画の棚も充実していた。学術書についてもポイントを押さえて配架されていた。日本語の文献を熱心に読み耽るロシア人の姿が印象的だった。

■ドム・クニーギ

ドム・クニーギはモスクワ最大の一般書店である。売場面積も広く、品揃えも豊富であるように見えたが、訪問日が平日の昼間でなおかつ大雪だったせいか、客はほとんどいなかった。2階の世界文学棚には、村上春樹のロシア語作品が多数陳列されていたが、日本関連の書籍では、現在、世界的なベストセラーになっている近藤麻理恵さんの『人生がときめく片づけの魔法』ロシア語版がよく売れているとのことだった。

6. おわりに

今回モスクワ国際ノン／フィクションブックフェア派遣の機会をいただき、編集者として多くの経験をさせていただいた。特に印象に残ったのは、このブックフェアと東京国際ブックフェアとの位置づけの違いである。簡単にいえば、モスクワ国際ノン／フィクションブックフェアは「本を愛する市民のためのお祭りの場」「次の読書人を育てる場」のように私には見えたが、東京国際ブックフェアは、近年、その広大なスペースの半分以上を電子書籍関連の最新技術の紹介ブースが

占めており、市民のための場というより、出版業界の衰退を憂える業界人による業界人のための場となっており、次の世代の読書人を育てようという意識はほとんど感じられない。愛書家が集まるコミュニティとしては、神保町ブックフェスティバルなどが役割を代替しているともいえるが、ブックフェアのあり方について再考すべき時なのではないか、市場を衰退から成長に転換させるヒントがモスクワ国際ノン／フィクションブックフェアにあるのではないかと考えたことに思いをめぐらせた。

また、先述のように、滞在当初はテロへの不安が無いわけではなかったが、アンナさんの言葉やフェア期間中のロシアの方々との交流をとおして、本を介した草の根の民間交流、相互理解の促進がいかにか大切かということに改めて学んだ。ナイーブだと言われそうだが、他者を知ろうとするなら、まず彼らについての本を読み、実際に会って、話して、理解を深めること。自分の考えを伝えること。彼らの声に耳を傾けること。相手を知るために言葉を尽くすこと。そのような地道な交流をひたすら続けることでしか、世界はよくなり、改められた。国際ブックフェアにはそのような存在理由もあるのだと思に至った。

編集者としては、今回の派遣で得た経験を今後の本造りに生かさなければいけないと思う。特にロシアについての理解を深められるような本を造って、日本の読者にお読みいただけるよう努めたい。

最後に、モスクワ滞在中大変お世話になった国際交流基金の日下部陽介様、坂上陽子様をはじめ、畠山キヌ子様、ナスチャさん、ケティさん、アンナさんをはじめとしたスタッフの皆様と、このような貴重な機会を与えてくださった国際交流基金東京本部の皆様、PACEの皆様、大学出版部協会の皆様に、この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

1. この放送内容は下記サイトに閲覧できる。
<http://jp.sputniknews.com/culture/20151129/1242269.html>
2. Russian Book Chamber [<http://www.bookchamber.ru/statistics.html>]
3. WEBマーケティング研究会「新興国のインターネット事情」
[<http://www.webdbm.jp/column2014/column2014-01/4215/>]
4. 同上。
5. Russian Book Chamber [<http://www.bookchamber.ru/statistics.html>]
6. ITmedia「ロシアの電子書籍市場、海賊版の横行により成長を阻害される」
[<http://ebook.itmedia.co.jp/ebook/articles/1307/18/news071.html>]
7. Daniel Kalder, "Russian Publishing 101", Publishing Perspectives [<http://publishingperspectives.com/2011/08/russian-publishing-101-what-you-need-to-know/#.VpYUmfb0DU>]
8. LNR MEDIA, "Flibusta sites", Litmir.net and Rutracker.org sued for books
[<http://latestnewsresource.com/en/news/na-flibustu-litmirnet-itrutrackerorg-podali-v-sud-iz-za-knig/>]
9. Russian Book Chamber [<http://www.bookchamber.ru/statistics.html>]
10. 同上

2016年に開催される主な国際ブックフェア

国際ブックフェア名	会期	国・地域名
01. ニューデリー国際ブックフェア	1月9日-17日	インド
02. コルカタ国際ブックフェア	1月27日-2月7日	インド
03. カイロ国際ブックフェア	1月27日-2月10日	エジプト
04. ドーハ国際ブックフェア	1月	カタール
05. ラホール国際ブックフェア	2月5日-9日	パキスタン
06. カサブランカ/出版と本の国際サロン	2月11日-21日	モロッコ
07. ハバナ国際ブックフェア	2月11日-21日	キューバ
08. 台北国際ブックフェア	2月16日-21日	台湾
09. ブラッセル国際ブックフェア	2月18日-22日	ベルギー
10. マスカット国際ブックフェア	2月24日-3月5日	オマーン
11. ビリニュス・ブックフェア	2月25日-28日	リトアニア
12. バルティック国際ブックフェア	2月26日-28日	ラトビア
13. ドバイ国際ブックフェア	3月1日-12日	アラブ首長国連邦
14. リヤド国際ブックフェア	3月9日-19日	サウジアラビア
15. ライプチヒ・ブックフェア	3月17日-20日	ドイツ
16. パリ・ブックフェア	3月17日-20日	フランス
17. アレキサンドリア国際ブックフェア	3月24日-4月5日	エジプト
18. チュニス国際ブックフェア	3月25日-4月3日	チュニジア
19. バーレーン国際ブックフェア	3月25日-4月6日	バーレーン
20. バンコク国際ブックフェア	3月29日-4月10日	タイ
21. ベネズエラ国際ブックフェア	3月	ベネズエラ
22. ボローニャ国際児童書ブックフェア	4月4日-7日	イタリア
23. ロンドン国際ブックフェア	4月12日-14日	イギリス
24. ケベック国際ブックフェア	4月13日-17日	カナダ
25. ボゴタ国際ブックフェア	4月19日-5月2日	コロンビア
26. ブダペスト国際ブックフェア	4月21日-24日	ハンガリー
27. ブエノスアイレス国際ブックフェア	4月21日-5月11日	アルゼンチン
28. ジュネーブ国際ブックフェア	4月27日-5月1日	スイス
29. アブダビ国際ブックフェア	4月27日-5月3日	アラブ首長国連邦
30. クアラルンプール国際ブックフェア	4月	マレーシア
31. サラエボ国際ブックフェア	4月	ボスニア・ヘルツェゴビナ
32. テヘラン国際ブックフェア	5月5日-15日	イラン
33. ブックエクスポ・アメリカ	5月11日-13日	アメリカ
34. ブラハ国際ブックフェア	5月12日-15日	チェコ
35. テッサロニキ・ブックフェア	5月12日-16日	ギリシャ
36. トリノ国際ブックフェア	5月12日-16日	イタリア
37. ワルシャワ国際ブックフェア	5月19日-22日	ポーランド
38. サンクトペテルブルグ国際ブックフェア	5月23日-26日	ロシア
39. ネパール国際ブックフェア	5月27日-6月4日	ネパール
40. ナイジェリア国際ブックフェア	5月	ナイジェリア
41. プカレスト国際ブックフェア	5月	ブルガリア
42. ソウル国際ブックフェア	6月15日-19日	大韓民国
43. サウス・アフリカ国際ブックフェア	6月	南アフリカ
44. シンガポール・ブックフェア	6月	シンガポール
45. 香港ブックフェア	7月20日-26日	中国
46. リマ国際ブックフェア	7月	ペルー
47. エディンバラ国際ブックフェア	8月13日-19日	スコットランド
48. 北京国際ブックフェア	8月24日-28日	中国
49. サンパウロ国際ブックフェア	8月25日-9月4日	ブラジル
50. マニラ国際ブックフェア	9月14日-18日	フィリピン
51. ヨーテボリ・ブックフェア	9月22日-25日	スウェーデン
52. 東京国際ブックフェア	9月23日-25日	日本
53. ナイロビ国際ブックフェア	9月28日-10月2日	ケニヤ
54. モスクワ国際ブックフェア	9月	ロシア
55. コロンボ国際ブックフェア	9月	スリランカ

国際ブックフェア名	会期	国・地域名
56. トゥルク国際ブックフェア	10月2日-4日	フィンランド
57. バルセロナ国際ブックフェア	10月12日-14日	スペイン
58. フランクフルト・ブックフェア	10月19日-23日	ドイツ
59. サンティアゴ国際ブックフェア	10月20日-11月6日	チリ
60. ベオグラード国際ブックフェア	10月23日-30日	セルビア
61. ヘルシンキ国際ブックフェア	10月27日-30日	フィンランド
62. リベール国際ブックフェア(Madrid)	10月	スペイン
63. ベトナム国際ブックフェア	10月	ベトナム
64. シャールジャ国際ブックフェア	11月4日-14日	アラブ首長国連邦
65. イスタンブール国際ブックフェア	11月12日-15日	トルコ
66. クウェート国際ブックフェア	11月18日-28日	クウェート
67. グアダハラ国際ブックフェア	11月26日-12月4日	メキシコ
68. バイルート国際ブックフェア	11月27日-12月10日	レバノン
69. ノンフィクション国際ブックフェア(モスクワ)	11月30日-12月4日	ロシア
70. モントリオール国際ブックフェア	11月	カナダ
71. 上海国際児童書ブックフェア	11月	中国
72. アルジェ国際ブックフェア	11月	アルジェリア
73. ガーナ国際ブックフェア	11月	ガーナ
74. インドネシア国際ブックフェア	11月	インドネシア
75. カラチ国際ブックフェア	12月15日-19日	パキスタン
76. ソフィア国際ブックフェア	12月	ブルガリア

本会理事館野 哲氏に 「出版功労(感謝)牌」授与さる

同牌は同氏の約30年にわたる数多くの韓国関連書の執筆と翻訳活動によって日本における韓国図書の普及に寄与した功績により授与された。表彰は2015年10月6日(火)第21回ソウル国際ブックフェア開催前日、世宗文化会館禮仁ホールにて催された「2015韓国文学翻訳院、出版功労賞授賞式」において行われた。



授賞式での
館野 哲理事

国際ブックフェアおよび 関連企画への参加募集のご案内

1. 第68回フランクフルト・ブックフェア

会 期：2016年10月19日(水)～23日(日)
場 所：フランクフルト国際見本市会場
出展形態：単独ブース出展またはコーナー出展の2種
詳細は出版文化国際交流会までお問い合わせ下さい。

2. 第22回ソウル国際ブックフェア

会 期：2016年6月15日(水)～19日(日)
会 場：COEX (韓国総合展示場)
出展形態：単独ブース出展
詳細は出版文化国際交流会までお問い合わせ下さい。

3. ベトナム版權商談会

概 要：ベトナムにおける我が国の社会・経済・文化の発展を支えている日本の出版物の翻訳出版への強い希望に応えるべく、日本書籍出版協会へのベトナム出版協会からの要請を受け、上記2協会主催、出版文化国際交流会協力のもと、ベトナム・ホーチミン市において開催されるものです。詳細は日本書籍出版協会(Tel. 03-3268-1303)までお問い合わせ下さい。
会 期：2016年5月25日(水)～29日(日)
会 場：General Sciences Library
of Ho Chi Minh City
対 象：出版社・エージェント限定